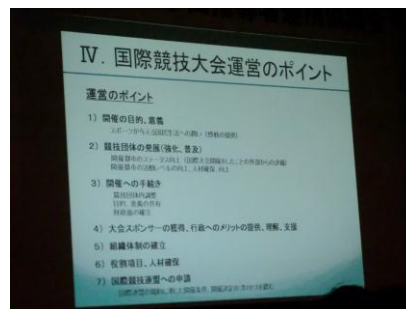


平成 25 年度中高指導者連携協議会

第 71 回国民体育大会の指導者向け強化事業として、6 月 25 日（火）にホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING において、「中高指導者連携協議会」が開催されました。

講演会とパネルディスカッションの 2 本立てで、来年度からターゲットエイジが高校のカテゴリーに移行する際の強化策について、それぞれの競技団体の中学・高校の指導者と、公立高校スポーツ特別強化指定校・推進校と私立高校重点強化校の指導者が、共に学び、確認しあう場になりました。



<講演会>

日本陸上競技連盟 事務局長 風間 明先生による講演会

- ・ 「大会運営を通じて見る、日本陸上界の過去と今後」と題して大会運営と強化の共通点などについて、お話いただきました。
- ・ 講演のポイント① 大会運営も強化も「大義名分」をしっかりと持って、物事を進めていかないと、望む結果はついてこない。
- ・ 講演のポイント②携わる者が「感動すること」を忘れてはならないこと。

3 年後国体を迎えるにあたり、競技種目は違えども風間先生のお話を「自分のこととして」傾聴する姿勢が、岩手国体を成功させるキーワードになりそうですね。



<パネルディスカッション>

岩手大学教育学部教授 陸上競技部部長 清水茂幸先生
不来方高校 男子ハンドボール部監督 内記 徹先生
下小路中学校 県中体連ハンドボール専門部委員長 佐藤正輝先生
日本陸連事務局長 風間 明先生

- ・ 「一貫指導システム」に関し、岩手国体で少年種別が活躍するために必要なことについて、話を展開していただきました。
- ・ ポイント① 中高の指導者が同じ「ねらい・考え」を共有すること。
- ・ ポイント② 即、得点源となり得るスーパー選手が不在の時こそ、指導者の良いアイデアが重要である。
- ・ ポイント③ チームや組織の現状をしっかりと分析し、「何が必要なのか」「誰が必要なのか」をしっかりと考え、計画を立てる。

強い岩手を創るには、まずは指導者・組織関係者自らが学ぶ姿勢を持つことが大切だということを改めて感じました。

3 年後の岩手国体では、皆さんで「感動」しましょう！